

【学生による ESD 学習支援活動】

奈良市立西大寺北小学校 野外活動 支援報告書

国語教育専修 2 回生 西條 秀哉

1. 実施日 令和元年 10 月 2 日（水）
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 坂本、仲村、後藤、西條、中田、稲原、柳川（学部生）
奈良市立西大寺北小学校 第 5 学年児童 約 90 人
引率教員 約 10 人

4. 活動支援内容

令和元年 10 月 2 日（水）、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立西大寺北小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学学生 7 名がその支援に当たった。1 泊 2 日のうちの主に 1 日目に関わり、オリエンテーションから、野外炊飯、キャンプファイヤーまでの活動の支援を行った。

今回の野外活動支援を以下の 3 点で振り返る。1 点目は子どもたちにゲームを教える難しさ、2 点目は大人数の子どもたちを相手にキャンプファイヤーをすること、3 点目は野外活動のノウハウを後輩たちに伝えることだ。

1 点目の子どもたちにゲームを教える難しさについては、事前研修の際に感じた。本活動では事前研修を 2 回行っており、私はどちらにも参加した。実際に子どもたちの前で 2 つゲームを行い、その後子どもたち同士で話し合わせて当日行うゲームを考えさせた。その際、他にどのようなゲームがあるのか子どもたちから質問を多く受けたが、私はあまり多くのゲームを知らず、別の班ごとに同じゲームを教えてしまうことがあった。子どもたちにとっては、私は野外活動の専門家であり頼れる存在であるので、もっと野外活動のゲームの種類を把握して教えられるようにしておくべきだったと反省している。

2 点目の大人数の子どもたちを相手にキャンプファイヤーをすることについては、キャンプファイヤーを行った際に感じた。今回のキャンプファイヤーは、子どもたち主体の活動であり、学生は後方支援がメインであった。しかし、児童数が今まで自分の活動してきた小学校とは日にならないほど多く、場を盛り上げたり、子どもたちの安全に気を配ったりすることがとても難しかった。大人数に紛れてしんどそうな子どもや、退屈そうにしている子どもが何度か見受けられたので、油断せず子どもたちを広く細かく見渡す必要があると思った。

3 点目の野外活動のノウハウを後輩たちに伝えることについては、本活動全体を通して感じた。私は野外活動支援に参加してからおよそ 1 年経っており、本活動には初めて野外活動支援を行う 1 回生や 2 回生がいた。私は、本活動に慣れているからこそ、彼らがこれから積極的に野外活動支援に参加していけるように、野外活動のノウハウを教えて、活動の楽しさを体験してもらえるように尽力した。

以上のことから、まだまだ教える側としては説明の仕方や促し方が不十分だと感じたので、これからは私自身が積極的に野外活動支援に参加し、後輩や初体験の人に技術と魅力を伝えていけるように努力していきたい。



薪組の様子